

第2回滋賀県高校生ビブリオバトル大会

～しが子ども読書活動推進ネットワークフォーラム～結果報告概要

滋賀県教育委員会では、平成25年度から高校生の読書率向上のために「ビブリオバトル」の普及に取り組んでいますが、本取組をより効果的なものにするとともに、社会全体で子ども読書活動を推進していく観点から、昨年度に引き続き、今年度も、文部科学省委託事業「しが子ども読書活動推進ネットワークフォーラム」を実施しました。

フォーラムでは、高校生によるビブリオバトル大会を実施し、高校生、大学生、学校・図書館関係者、読書ボランティア、PTA等の社会教育団体など、全体では170名の御参加をいただき、幅広い参加者による大会となりました。また、終了後には、大会に参加された方々で交流会を開催し、フォーラム全体を通して世代や所属団体を越えた交流やネットワークの構築を図りました。

【日 時】平成26年12月13日（土）12：30～18：00 ***参加者170名**

【会 場】米原市米原公民館・県立文化産業交流会館

【内 容】

(1) 開会式 【12：30～12：40 米原公民館：大ホール】

主催者である滋賀県教育委員会事務局生涯学習課長の挨拶の後、予選会に出場する高校生バトラーをグループ別に紹介しました。



(2) 高校生ビブリオバトル大会（予選）

【13：00～14：00 米原公民館：各研修室、文化産業交流会館：各会議室】

13校32名の高校生バトラーが出場し、6グループに分かれてビブリオバトルを行いました。各会場で熱いトークが繰り広げられ、それぞれ1名のチャンプ本紹介者が決定、決勝に進出しました。



(3) Let's ビブリオバトル～みんなでやってみよう～

【14：15～15：10 米原公民館：各研修室】

世代や所属団体の異なるメンバー構成でビブリオバトルを実際に体験していただき、人と本、人と人の交流を図りました。

当日飛び入り参加された一般参加者の方や決勝に進めなかった高校生7名の再挑戦を含め、各々お気に入りの本を1冊持ち寄り、参加者26名が5グループに分かれてビブリオバトルを行いました。オーディエンス（聴衆）のみの方も含めると、77名の御参加をいただき、本の楽しさや魅力を紹介し合うことで、グループで活発な質疑が行われ、本を介して人と人をつなぎ、幅広い年齢層のネットワークの形成につながりました。



(4) 高校生ビブリオバトル大会（決勝）

【15：30～16：30 米原公民館：大ホール】

予選を勝ち抜いた6名の高校生バトルヤーが、決勝ステージで、最終決戦を行い、県立米原高等学校の坂本良哉さんが紹介された『レインツリーの国』（有川浩著）がチャンプ本に選ばれました。



(5) 閉会式 【16：30～16：45 米原公民館：大ホール】

はじめに、チャンプ本紹介者が滋賀県教育委員会教育長（代理）から表彰されました。

その後、県立米原高等学校の高岡琴未さんが参加者へ向けて、「ビブリオバトルの活動を通して、本を紹介し合うことが楽しいと思うようになった。これからは、より多くの本を読み、たくさんの世界を体験していきたい。」と、読書メッセージが発表されました。

また、滋賀県公共図書館協議会副会長で、愛荘町立図書館館長の平形ひろみさんからは、「たくさんの本と巡り合える場所が公立図書館である。公立図書館がみなさんの生涯を支える場所として、本との出会いの場所として存在している。これからも本を通してたくさんの出会いをみなさんと一緒に楽しんでいきましょう。」と、本を通じた新しい世界の出会いの場としての「図書館利用」について、お話していただきました。



(6) 交流会 【17:00~18:00 米原公民館：2階AB研修室】

大会終了後には、「ネットワークの構築」をさらに深めることを目的とした交流会を開催しました。

交流会には、高校生8名を含む30名が参加し、最初に全体で簡単なアイスブレイクを行った後、3つのグループに分かれて、「最近読んでいる本」「本を選ぶときの基準や普段本に対して思っていること」などのテーマで、それぞれの思いを語り合いました。会話が進むにつれ、話題も広がり、読書活動に関する活発な交流の場となりました。



【参加者の感想】（抜粋） ※原文のまま、記載してあります。

<高校生ビブリオバトル大会について>

- ・はじめてビブリオバトルを見たのですが、とても熱くおもしろかったです。高校生ならではの元気と若さがあったので楽しかったです。
- ・本より語る高校生の方に魅力を感じました。その本を選んだ人がなぜその本に出会えたのか、また、なぜその人がその本を選んだのか、そこに興味があって、ああこの人だからこの本を選んだんだって思いながら聴くのが楽しくてしかたがありません。
- ・参加した子どもたちがバトル後、すごくいい顔をしているのがたいへん印象的でした。学校の枠を超えて交流している姿が見られたり、応援にきている後輩が「来年は出る」と言っていたりする姿はすごく素敵ですね。
- ・どの高校生もしっかりと自分の思いを伝えてすばらしいと思いました。本の紹介をしているのですが、その子の人間性がよく分かる5分間でとても魅力的な大会でした。
- ・本好きがあつまっているということでもっと交流をふかめたいと思いました。また機会があればいきたいです。
- ・一人ひとり个性的で味のある発表でした。それでいて熱意がよく伝わってきました。楽しませて頂きました。
- ・一冊の本からの思索と自らの生き方、考え方をてらして訴えているひたむきさに感心した。
- ・初めて行い、同じ読書が好きという方にあえ、そしてその人たちのおすすめの本がきけてよかった。

<Let's ビブリオバトルについて>

- ・普段接することのない方々と本を通して交流できて面白かったです。大学生の方、高校生、公共図書館の方と面子もバラエティに富んでいて楽しくすごせました。
- ・高校生・大学生・本がお仕事の方、初めて出逢う方々の一步踏み込んだディスカッションや本を通してのその人の考え方、感じ方に触れることができるのが、ちょっとココロが温かくなりました。←安心感でしょうか。
- ・気軽に参加でき、たいへん楽しかったです。小グループの方がビブリオバトルに向いていると改めて実感しました。本をとおして紹介している人にも興味をもてました。

- いろんな読書経験をつんだ人が集まると自分だけでは知りえない本に出会うことができ、楽しいですね。
- 大人がビブリオバトルに参加するというのは、指導する人を増やしたり、ビブリオバトルという取組みを県内で広めていくのに有効な手立てだと感じました。
ビブリオバトルについてもよかったのですが、その後、司会をしていた大学生を中心に子どもの読書について、参加者同士で意見交換が自然発生的に起こったことがとても参考になりました。その中で、大学生が「勝ちたいという気持ちはあるが、それ以上に自分の好きな本について人に勧められるということがうれしい。」と語っていたのが印象的でした。職種も違う、年齢も違う人たちが集まって読書について語ることは貴重な体験でした。
- 一般の方々、男女、いろいろな年齢層で発表され、本のジャンルも多彩でした。発表していた人が楽しそうでした。全体の雰囲気も和やかでした。
- 興味がある一般の方にとって、なかなかする機会がないので、このような場があるのはありがたい。
- 参加して同じグループの立場や年齢が違う人と本の話がたくさん出来て楽しかったです。